

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700971		
法人名	特定非営利活動法人 ママサポートえぶろん		
事業所名	グループホーム うらら花		
所在地	北海道足寄郡足寄町旭町2丁目27番地1 (電話) 0156-25-5336		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成22年2月9日	評価確定日	平成22年3月9日

【情報提供票より】(平成22年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 17年4月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9人, 非常勤 2人, 常勤換算	9.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000~30,000 円	その他の経費(月額)	9,000~15,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.4 歳	最低 74 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	足寄町国保病院・医療法人社団三意会 我妻病院・足寄ファミリー歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の主婦が立ち上げた高齢者・障がい者の福祉サービスを主事業としたNPO法人が運営している住宅改装型のグループホームです。ホーム内は明るく利用者同士や職員が一体となって楽しく過ごしている雰囲気が伺えます。地域の方々とは、花見・夏祭り・避難訓練等の地域行事への参加を通じて良い関係が築かれ連携を深めています。又、夏休みのラジオ体操への参加や芽登小学校の児童との交流会は毎年実施され利用者と子供達の貴重な交流の機会になっています。管理者はチームケアを意識して職員と十分に話し合い、その方らしい生き方を優先し「健やかで、その人なりの個性、暮らしを尊重し、心地よい居場所を提供します。」を実践しているホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点は、ケアプランと記録の連動性を重視した取り組みを検討するという点でしたが、管理者はサービスの実施状況が把握出来るようにケアチェックシートを作成して評価しています。又、職員にケアプランを意識して記録を記入するように指導し取り組んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は実施する意義を理解し自己評価については全職員で取り組み管理者がまとめて作成しています。又、外部評価では評価結果の課題や提案などを真摯に捉え、具体的な改善に向けて取り組んでいます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、年6回を目標に取り組んでいます。主な主題については ①ホームの活動報告 ②職員の研修報告 ③防災・避難訓練の取り組みと今後の計画 ④外部評価の結果報告 ⑤出席者からの質疑応答
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 季節毎にホームだより「うらら花日記」を発行し、日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子、職員紹介など写真を交えて伝えています。家族の来訪時には、体調や日常の様子を報告し、金銭管理については、出納帳を作成し、いつでも報告できる状態になっています。運営推進会議での意見や要望は全員で速やかに話し合い、結果を家族や次の会議で報告しています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームと自治会が一体となって花見、夏祭り、餅つき会、防火訓練など地域行事に参加し積極的に交流しています。又、夏休みのラジオ体操への参加や芽登小学校の児童との交流会は毎年実施され利用者と子供達の貴重な交流の機会になっています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者が本人本位の生活が営めるように「健やかで、その人なりの個性、暮らしを尊重し、心地よい居場所を提供します。」をホーム独自の理念として全職員で話し合って作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に意識して取り組めるように生活記録の表紙に記載し、いつでも確認できるようにしている。又、会議の際に理念を振り返る機会を作り、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームと自治会が一体となって花見、夏祭り、餅つき会、防火訓練などの地域行事に参加し、積極的に交流している。又、夏休みのラジオ体操への参加や芽登小学校の児童との交流会は毎年実施され利用者と子供達の貴重な交流の機会になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は実施する意義を理解し自己評価については全職員で取り組み管理者がまとめて作成している。又、外部評価では評価結果の課題や提案などを真摯に捉え、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については年6回を目標に取り組んでいる。委員は利用者家族、自治会長、包括支援センターの職員、ボランティア関係者、法人理事長及び管理者・職員で構成され、ホームの現状報告や今後の取り組みの報告を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の介護福祉課の担当者とは、定期的に現状報告やホームの運営上の協力の依頼や相談などで行き来する機会を作っている。又、包括支援センターから定期的な訪問もあり、相談や助言を戴いており、町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季節毎にホームだより「うらら花日記」を発行し、利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子、職員紹介など写真を交えて伝えている。又、家族の来訪時には、体調や日常の様子を報告し、金銭管理については、出納帳を作成し、いつでも報告できる状態になっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族からの意見、不満、苦情を、外部者である委員に聞いて貰える機会を設けている。又、その中で意見、要望があれば全員で速やかに話し合い、結果を家族や次の会議で報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者は、離職を防ぐ取り組みとして、仕事上の悩みや相談を受けたり、勤務体制を柔軟に対応している。又、代わる場合はホーム内の穏やかな雰囲気が変わらないように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で資格取得に向けての勉強会や毎月の全体会議で研修会や勉強会を実施している。又、外部への研修や講習も奨励しており、グループホーム連絡協議会のブロック研修会、近隣の町村主催の研修会や勉強会にも希望を募り、積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の5町村で年間数回、勉強会や研修会での交流やグループホーム連絡協議会のブロック研修会に積極的に参加し、情報交換を行い交流する機会を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスからの利用者が多く、相互交流の中で馴染みの関係が構築されている。又、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう利用者や家族の見学や宿泊の受け入れなどで不安を解消する取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごししながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの過去の生活歴を踏まえ、昔の出来事や得意だった事を教えて戴くような会話を心掛けている。利用者と調理や後片付け、畑作業、散歩、買い物などを一緒に楽しみながら行い、本人の思いに沿った支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がホームでどのような暮らしを希望しているのかを把握し、可能な限り本人の希望に添えるように支援している。散歩や買い物で金銭を使う場面を見出したり、料理や趣味などの支援や食事の準備、食の嗜好の把握などの情報を共有して取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や、カンファレンスでの職員からの意見やアイディアを取り入れ具体的な介護計画を作成している。又、ケアプランのサービスの実施状況が把握出来るようにケアチェックシートを作成して評価している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画書に記載している個別の期間に応じた見直しを行い、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者・家族、必要な関係者と話し合い、その都度、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人が運営しているデイサービスへの相互訪問や本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、一時帰宅支援、家族の宿泊、通院の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望や要望を尊重して以前から通院していた医療機関との関係が継続出来るように支援している。又、状態変化などについても往診など適切な医療が受けられる体制が築かれ、ホーム内に気軽に相談できる看護師も配置している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合はできるだけ早い段階で家族やかかりつけ医と十分に話し合い、今後の方針を全職員で共有できる体制になっている。又、看取りの指針を作成し、家族からの同意書も貰っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないように言葉かけや介助を心掛け、プライバシーや羞恥心の配慮にも十分に注意して支援している。又、記録等の個人情報の取り扱いについても、十分に注意して取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、買い物や理美容の支援、起床時間、食事の時間など本人の希望や意向に沿って支援している。又、食事の準備、掃除の手伝いなどもその日の体調や気分を尊重して支援している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の能力を活かしながら食事の準備や食事、後片付けを一緒に行っている。食事中は、介助の必要な利用者にはさりげない介助を実践している。又、野外バーベキューや近郊の観光地のレストランや回転寿司など外食する機会を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	固定した入浴日は決めずに、全員が2日に1度は入れるように利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を踏まえ、残存機能を活かし、それぞれが役割を持てるように調理や掃除、畑作業などを行っている。又、気晴らしの散歩や手芸などの趣味の支援、行事やドライブなど外出機会を設け、喜びのある充実した生活ができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩などを行っている。芝桜チーズ工場やラワンブキ見学、足寄神社祭りや浴衣祭り、仮装パレードへ出かけたり、町内や近郊の観光地へのドライブなど気分転換や心身のリフレッシュができるように積極的に戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、外出を希望する利用者には常に同行し、職員が見守り安全面に十分な配慮を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	防火管理者が配置され、緊急連絡網、緊急対応マニュアルも作成しており、緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように夏・冬年2回、消防署や自治会と連携して防火・避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせておかゆやきざみ食などの対応も行っており、具体的な食事摂取量・水分摂取量が食事摂取表に記録されており、献立は管理栄養士が作成し栄養バランスやカロリーもしっかりと管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は定期的に季節感が感じられるような花や飾り付けに変えており、壁には行事の写真や利用者の作品が飾られている。共用空間は、一人になったり利用者同士談笑できるスペースが確保され、利用者にとって気になる臭いや不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や鏡台、箆笥、椅子など使い慣れた家具などが持ち込まれ安心して過ごせる空間となっている。又、家族と一緒に写真や趣味の作品等を飾り、一人ひとりの思いが伝わり居心地よく過ごせるような空間になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。